

目指すべきまちの姿と基本目標、取組み指標（事業実績評価指標）

1. 目指すべきまちの姿

「高山市SDGS未来都市計画」に掲げられている2030年のあるべき姿を参考に、以下の通りとする。

『自然がもたらす多様な恵みを活かすとともに、
先進的な脱炭素社会を推進するまち 飛騨高山』

森や水、大地など自然がもたらす多様な恩恵への理解が進み、環境の保全が図られるとともに、豊かな自然の恵みを活かした地域・産業の活性化が図られ、国内外から注目される地球環境にやさしい先進的な脱炭素社会に向けた取組みが進んでいる。

2. 対象とする温室効果ガスと算定方法

- ・削減目標の設定や具体的な対策を講ずる温室効果ガスは、温室効果ガスの9割以上を占める二酸化炭素とする。
- ・環境省のHPで公表されている地方公共団体の部門別二酸化炭素排出量現況推計値のデータを引用する。

※ 現行計画における市の二酸化炭素排出量については、市内の電力使用量、燃料販売量等のデータを販売業者より提供を受け、排出係数（種別ごとの単位当たりの二酸化炭素排出量）をかけて算出してきた。しかし、電力の小売り自由化が進むなど社会情勢は変化してきており、市内で事業や生活に消費されるエネルギー量の捕捉が難しくなっている。

環境省は各自治体の二酸化炭素排出量を公表してきており、事業者のエネルギー消費も把握していることから、見直し後の計画における二酸化炭素排出量については、この環境省の公表数値を用いることとする。なお、この公表数値を活用することで他市との比較等も容易にできるようになる。

3. 取組み指標（事業実績評価指標）

（1）二酸化炭素排出量の削減

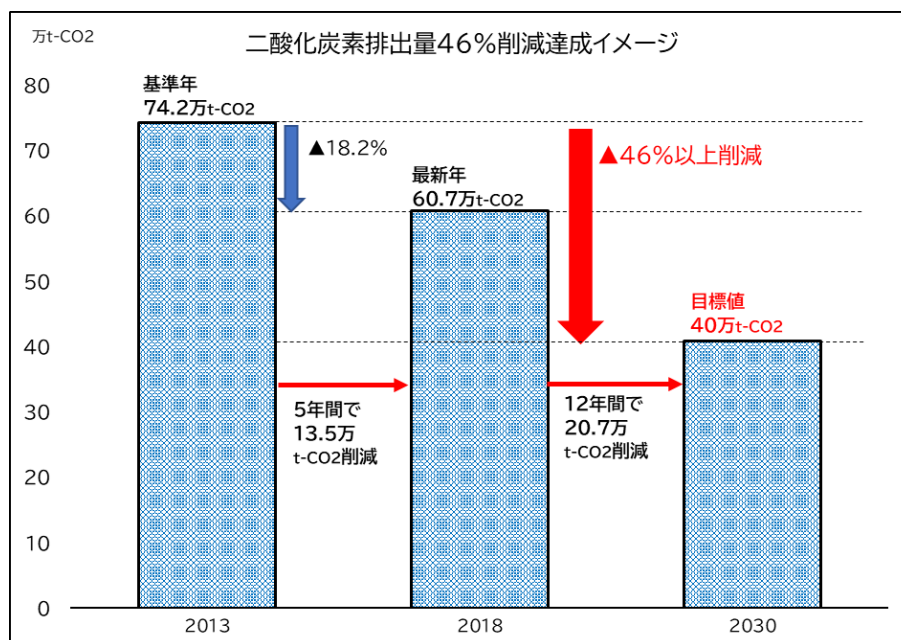
『2030(令和12)年度までに、市域からの二酸化炭素排出量を46%以上削減します』

<基準年>	2013(平成25)年度	74.2万t-CO ₂
<目標>	基準年度比46%以上削減	40.0万t-CO ₂

国は、2020(令和2)年10月に、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、「2050年カーボンニュートラルによる脱炭素社会」の実現を目指すことを宣言した。さらに、2021(令和3)年4月には、2030(令和12)年度までに温室効果ガスを2013(平成25)年度から46%削減することを中間目標として目指すことを表明した。

本計画では、国の地球温暖化対策計画と整合をとり、基準年を2013(平成25)年度に設定するとともに、市内の二酸化炭素排出量について、基準年度比46%以上削減を目指す。

二酸化炭素排出量の削減目標達成イメージ



※ 環境省HP掲載数値をもとに高山市作成

(2) 市内における再生可能エネルギー電力利用実質100%

『再生可能エネルギーの導入促進と徹底した省エネルギーの取組みにより、市内における再生可能エネルギー電力利用実質100%を目指します。』

<直近年>	再生可能エネルギー発電量	45,141MWh
	市内の電気使用量	550,405MWh
	再生可能エネルギー自給率	8.2%

※いずれも2018(平成30)年度推計値

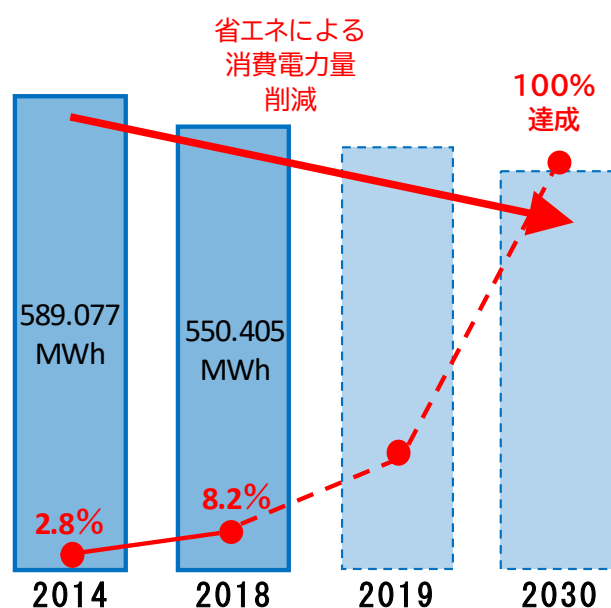
<目 標> 2030(令和12)年度までに実質100%達成

高山市における2018(平成30)年度の再生可能エネルギー発電量は45,141MWhである。一方、市内の電気使用量は550,405MWhで、高山市における電気使用量に対する再生可能エネルギー発電量の割合は8.2%である。

高山市内における、FIT認定を受けた再生可能エネルギー設備容量(稼働分含む)は約17万KWで、推計発電電力量は約50万MWhに相当する。

しかし、FIT認定されている未稼働の再生可能エネルギー設備がすべて稼働するとは限らないため、自家消費型を含む再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、徹底した省エネルギーの取組みによる消費電力量を削減することで、2030(令和12)年度までに、再生可能エネルギーによる電力利用実質100%の達成を目指す。

再生可能エネルギー自給率実質100%達成イメージ



※ 資源エネルギー庁HP掲載数値をもとに高山市作成